

平成20年度 フッ化物洗口普及モデル事業実施報告書

【市町村名】 鴨川市

【郡市歯科医師会名】

安房歯科医師会

実施施設数			
保育所数	幼稚園数	小学校数	中学校数
0	0	0	1

1. フッ化物洗口に関する前年度までの経緯

旧天津小湊町はう歯罹患者がとても多く、予防対策のため、東京歯科大学 眞木教授の指導により乳幼児のフッ化物洗口を平成7年より始め、その後、町内全校実施にいたった。

鴨川市との合併後も継続して行われ、フッ化物洗口の安全性、予防効果が広く知られるようになり、協議の上、鴨川市内全校実施に向けて推進中

2. 推進体制づくりの経緯

実施事項	具体的な内容	評価
講習会	平成6年よりほぼ毎年鴨川地区学校関係、行政関係者への講演会	関係者の多くがフッ化物に関する知識を深めることができた。
	平成14年安房歯科医師会講習会として東京歯科大学 松久保教授による講演	会員全員にフッ化物洗口の有効性と安全性の理解をより深めることができた。

3. 施設における取り組み内容

施設① 安房東中学校

実施事項	具体的な内容	評価
講演会	フッ化物とむし歯予防を主題とした歯と口の健康講演会をライオン歯科衛生研究所の協力のもと全校生徒、学校関係者を対象に行った。	むし歯予防のみならず口腔の健康の重要性に対する知識を深めることができた。

4. 問題となったこと・今後の課題とその対応について

なし

5. 21年度以降の事業の予定・市町村事業としての予算化の有無

期待したい

平成20年度 フッ化物洗口普及モデル事業実施報告書

【市町村名】 流山市

【郡市歯科医師会名】 流山市歯科医師会

実施施設数			
保育所数	幼稚園数	小学校数	中学校数
0	0	2	0

1. フッ化物洗口に関する前年度までの経緯

平成19年度、市教育委員会へ「フッ化物洗口」について説明、実施について検討していただいたが「安全性が不明」との理由で理解を得られず。

学校歯科保健委員会が主体となり、学校歯科医を通じて、市内小中学校の校長・養護教諭にフッ化物洗口の効果・モデル事業について説明。検討いただけるように打診したが、実施にいたらず。

2. 推進体制づくりの経緯

実施事項	具体的な内容	評価
研修	学校歯科保健委員が日大松戸歯学部社会口腔保健学講座小林清吾教授より、フッ化物洗口の実際についての指導・資料等提供いただく。 東京医科歯科大学川口陽子教授より、フッ化物洗口の実施開始にあたっての注意事項の指導や資料の情報提供をいただく。	フッ化物洗口の効果の理解を深め、小学校での実践について、具体的な指導をいただいた。
養護教諭への説明 (6月健歯コンクール)	学校歯科保健委員がフッ化物洗口の効用・実際・モデル事業について、講演	フッ化物洗口の知識・効用について理解いただいた。

3. 施設における取り組み内容

施設① 流山市立八木北小学校

実施事項	具体的な内容	評価
フッ化物洗口事業実施依頼	学校長・養護教諭にフッ化物洗口普及・モデル事業について説明し、協力を依頼	積極的に取り組むことに賛同いただいた。
保護者説明会	10月30日「むし歯予防教育について」を実施 小林清吾教授による講演「フッ化物洗口のすすめ」	保護者へフッ化物洗口の効果について紹介できた。
洗口希望調査	学校に依頼し、保護者宛に希望調査を通知し、実施希望者の確認	全員希望を確認できた。
洗口の練習	学校歯科医の指導のもと、水道水にて洗口練習	実際の流れを把握できた。
洗口の実施	1年生(12月4日)より、学校歯科医の指導のもと、フッ化物洗口開始 実施方法：週1回法(木曜日)9:20～9:25、7cc30秒 洗口液は学校歯科医が作成、歯科用紙コップにて洗口 以降、毎週木曜日に実施	練習どおり実践できた。

施設② 流山市立南流山小学校

実施事項	具体的な内容	評価
フッ化物洗口事業 実施依頼	学校長・養護教諭にフッ化物洗口普及モデル事業について説明し、協力を依頼 具体的な実施期間、対象児童は学校の指導方針を優先する。	子供たちにとって良いことは積極的に取り入れたいと、実施協力を得られた。
教員への説明	担任教員へのフッ化物洗口の効果の説明とフッ化物洗口体験 実践における時間配分、指導方法、児童や教員の負担等についての説明	効果について理解が得られ、また、自身が体験することにより、児童への指導方法・内容が具体化できた。
保護者説明会	10月23日 3年生学級懇談会に学校歯科医が出向き、フッ化物洗口の効果を説明、実際に児童がおこなう方法でフッ化物洗口を体験。今後も質問等があれば、随時、学校歯科医がメール・電話で受け付けることを伝える。 10月30日 八木北小学校での小林清吾教授の講演会「むし歯予防教育について」も参加許可いただく。	クラス毎に少人数で説明、実体験ができ、意見交換も活発におこなわれ、保護者の理解を得られた。
洗口希望調査	学校に依頼し、保護者宛に希望調査を通知し、実施希望者の確認	希望者を確認し、養護教員・担任がクラス全体としての取り組み方法を再確認できた。
洗口の練習	3年生(11月12日)、特別支援学級(11月14日)児童が学校歯科医の指導のもと、給食後、水道水にて洗口練習	実際の流れが把握でき、教員・児童とも自信をもってフッ化物洗口に取り組めるとの返事をいただいた。
洗口の実施	3年生(11月18日)特別支援学級(11月17日)より、学校歯科医の指導のもと、フッ化物洗口開始 実施方法:週1回法(3年生水曜日・特学金曜日)給食後30秒間「崖の上のポニョ」の歌にあわせて実施。以降、毎週、各クラス予定日に実施	練習どおり実践でき、児童は自信を深めた。

4. 問題となったこと・今後の課題とその対応について

- ・ 県モデル事業の終了後、費用の負担について、検討を要する。
- ・ 次年度については、校長・養護教員・担任の異動があるために、継続事項として伝達はするが、継続できない場合もあるとのこと。長期継続によるフッ化物の有効性を考えると学校歯科医としては、学校のやむを得ない事情とはいえ、大きなジレンマである。
- ・ 市全体としての事業への取り組みは難しいが、各学校長の理解と学校歯科医の取り組み方により、フッ化物洗口の開始・継続が可能であると考えられる。養護教諭を通じて、教員・保護者がフッ化物洗口の有効性・適齢期についての理解を深めていただけるよう、今後も機会ある毎に説明を継続する必要性を感じた。
- ・ クラス数が多く(4クラス)、担任主導の実施となるため、実施回数を重ねるにつれて、担任の指導方法にばらつきがみられることもあるので、学校歯科医が適時確認し、再確認する。
- ・ 実施した学年の担任からは、「子供たちにより口腔衛生習慣を身につけることができた。また、子供たち自身が『〇曜日はフッ素の日』と認識し、積極的に取り組み・実践できる課題となった」と前向きに評価していただいた。今後の事業の継続に生かしたい。
- ・ 「フッ化物洗口の実施より、歯磨き指導」等を希望する保護者意見もあるので、口腔衛生指導として、フッ化物洗口だけでなく、その他の指導についても、学校側の受け入れ体制や、時間の調整が可能かどうか継続検討していただく。

5. 21年度以降の事業の予定・市町村事業としての予算化の有無

- ・ 八木北小学校：現在実施学年は、来年度も継続、新1年生も5月頃から開始予定
- ・ 南流山小学校：特学は、継続希望。3年生は、校長・新養護教諭・新担任とで4月以降に継続について検討の予定
- ・ 予算化については、未定

6. 記録写真等

八木北小学校 1年生の洗口実施風景



平成20年度 フッ化物洗口普及モデル事業実施報告書

【市町村名】 八千代市

【郡市歯科医師会名】 八千代市歯科医師会

実施施設数			
保育所数	幼稚園数	小学校数	中学校数
1	0	1	0

1. フッ化物洗口に関する前年度までの経緯

2000年	厚生労働省「健康日本21」
2002~2004年	八千代市健康づくり指針策定委員会 専門部会として「健やか親子」「生活習慣病予防」「いきいき高齢者」を設置 歯科保健については市民アンケートに加えて八千代市内12歳児全員の歯科健 診結果の集計分析と母子歯科保健健診を市内地域区分で再集計を実施 その結果、八千代市内の歯科保健の状況に格差があることが判明
2004年3月	八千代市「八千代市健康まちづくりプラン」策定
2005年7月	八千代市歯科保健連絡会にて(歯保連)母子歯科保健と学校歯科保健を一 緒に協議できる場の設置を要望
2006年4月	八千代市歯科保健推進協議会を設置
8月	歯科保健推進協議会の設置の目的説明のために講演会を実施 年度内2回の会議と1回の研修会を開催 むし歯予防におけるフッ化物利用の重要性をせつめいしたところ大きな反響
2007年1月	神戸市にフッ化物洗口を視察に行く。
2007年6月	平成19年度第一回歯科保健推進協議会
2007年7月	フッ化物洗口普及モデル事業(千葉県)を千葉県歯科医師会が委託される。 千葉県、千葉県歯科医師会によるフッ化物洗口マニュアルができる。
2007年8月	鎌ヶ谷市の保育所フッ化物洗口担当者を招いて研修会を実施
2007年11月29日	米本小学校校長、養護教諭に説明
2007年11月30日	平成19年度第二回歯科保健推進協議会 行政からは今年度の実施は難しいと説明がある。
2007年12月28日	八千代市市長と歯科医師会会長との協議で実施が了解された。
2008年4月2日	米本小学校、米本南保育園、合同職員説明会
2008年4月23日	米本小学校2年生保護者説明会で説明、PTA総会で説明
2008年5月19日	米本南保育園で保護者へフッ化物洗口説明会 園児のお迎え時間にあわせ、夕方2回実施した。
2008年5月	米本小学校、2年生26名中25名でフッ化物洗口が開始 週1回法
2008年6月	米本南保育園、5歳児21名中21名でフッ化物洗口が開始 週2回法

2. 推進体制づくりの経緯

1. にて説明しているため省略

3. 施設における取り組み内容

施設① 米本小学校

実施事項	具体的な内容
週1回法	小学校2年生 26名中25名が実施7mlを1分間洗口、450ppm、毎金曜ミラノール

施設② 米本南保育園

実施事項	具体的な内容	備考
週2回法	保育園児、5歳児21名中21名が実施5mlを1分間洗口、450ppm、毎火木曜オラブリス	1分間のうがいが難しい子が1名いるが、保育士が付き添い実施

施設③ 八千代市生涯研修プラザ 2階 多目的ホール

実施事項	具体的な内容	備考
平成21年2月19日 午後6時~8時半 八千代市むし歯 予防推進特別講習会	「八千代市におけるフッ化物洗口の現状」 八千代市歯科保健推進協議会会長 杉山 精一 「診療室と地域におけるフッ化物応用」 神奈川歯科大学 教授 荒川 浩久 先生	歯科医師 35名 スタッフ 36名 その他 21名 合計 92名

4. 問題となったこと・今後の課題とその対応について

- ・実施施設での洗口剤購入方法 学校歯科医が処方箋を発行することで対応
- ・週1回法の900ppmが未承認 450ppmで行っている。
- ・実施施設の増加、職員異動への対応 毎年職員研修会の開催が必要
- ・歯科医院でのフッ化物洗口剤の取り扱い 歯科医師会で研修会を開催
- ・フッ化物洗口剤を販売している歯科医院が市民にはわかりにくい。
取り扱い歯科医院の名称、フッ化物洗口剤の種類をリストにして公表を予定

5. 21年度以降の事業の予定・市町村事業としての予算化の有無

2008年度までは米本南保育園の5歳児21名中21名が実施
米本小学校2年生の26名中25名が実施
2009年度からは米本南保育園では4歳児、5歳児、
米本小学校では1年生、2年生、3年生への実施が予算確定

6. 記録写真等



ま と め

平成 20 年度で8020運動推進特別事業「フッ化物洗口普及モデル事業」の委託期間が終了いたします。ここに、委託期間 3 年間の報告をいたします。

平成 18 年度には、平成 7 年から継続的に実施されている鴨川市の洗口事業と平成 11 年から実施されている君津市立小糸小学校での洗口事業を除き、新たにフッ化物洗口を実施する地区（市町村）に対して支援を行いました。その結果、県内の 15 地区で新たに事業が展開されました。

全国的に見ると、佐賀県では保育園、幼稚園、小学校において 95%以上の実施率になったことや、京都市では全県下の小学校でフッ化物洗口が実施されたことが報告されています。このように全国的にフッ化物洗口を実施する自治体が拡大しています。NPO 法人日本むし歯予防フッ素推進会議の全国調査によりますと、78 万人が実施されていると報告がされています。

しかしながら、千葉県では平成 18 年本事業実施前の洗口実施人数は約 1,270 名でした。19 年度実施人数は約 5,000 人、20 年度は約 7,000 人とわずかずつではありますが、実施人数の増加があり、その地区のフッ化物洗口のモデル的事業として、重要な情報源になりました。また、地区間のネットワークの形成ができたことが大きな成果の一つです。

一方、本事業は、モデル事業であるため実施年数が限られており、千葉県や千葉県歯科医師会からの継続的な支援が図れず、各地区での継続方法が大きな問題になっています。継続実施に向け地区自治体の予算の確保ができたところがある一方、受益者負担によって継続できるどころ、または継続費用の捻出がかなわず継続中止になるところなど、さまざまな結果になっています。

そして、地区の組織間の意見の食い違いで、継続中止になったところもあります。

これらのことを、鑑みますと、

- ① フッ化物への理解が不十分であること
- ② 公衆衛生的な疾病対策であることの理解が不十分であること
- ③ 支援が長期に亘るような施策がないこと
- ④ 地域で中心になって活動する人の支援をする理解者が少ないこと

などが明確になりました。

以上のような結果から、これまで、行ってきたことが継続されるように支援体制の強化を行うことが必要です。そのためには、公衆衛生的な施策目標を明確にし、公的支援を強化することが重要であると考えます。